

第40回 品質保証分科会 議事録

1.日時 平成 27年3月16日(月)13時30分～15時00分

2.場所 航空会館 B101 会議室

3.出席者(順不同, 敬称略)

出席委員:棟近分科会会長(早稲田大学), 渡邊幹事(JANSI), 飯塚(東京大学), 佐藤(元東京海洋大学, 御手洗(三菱電機), 櫻井(関西電力), 原田(東京電力), 菅野(電源開発), 塚本(北陸電力), 櫻庭(東北電力), 島津(北海道電力), 古谷(日本原電), 西岡(四国電力), 菊池(原子燃料工業), 福本(グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン), 山本(日本原燃), 田子(日本原子力研究開発機構), 森(JANSI), 武田(東芝), 手柴(日立GE), 高橋(富士電機), 丸岡(日本製鋼所), 長浜(清水建設), 藪内(鹿島建設), 谷口(大成建設), 米岡(LRQA), 関谷(発電設備技術検査協会), 小野(三菱原子燃料)
(計 28 名)

代理委員:高田(中国電力・本田代理), 越智(日本 NUS・菅谷代理), 鈴木(中部電力・石田代理), 浅田(三菱重工業・松本代理), 岡部(IHI・大久保代理), 中川(テクノファ・須田代理)
(計 6 名)

欠席委員:吉田(熊本大学), 岡野(九州電力) (計 2 名)

常時参加者:渡邊(原子力規制庁) (計 1 名)

オブザーバ:中條(中央大学), 中川(原子燃料工業), 北瀬(関西電力) (計 3 名)

事務局:美馬, 井上, 志田(日本電気協会) (計 3 名)

4.配付資料

資料 40-1 原子力規格委員会 品質保証分科会 (分科会, ワークショップ検討タスク, 検討会) 委員名簿

資料 40-2 第 39 回品質保証分科会 議事録 (案)

資料 40-4-1 日本機械学会の誤記への対応について (品質保証検討会)

資料 40-4-2 日本機械学会 設計・建設規格の誤りに対する対応について (原子力規格委員会事務局)

資料 40-4-3 JEAC 及び JEAG の誤記確認について

資料 40-5-1 JEAC4111 講習会の平成 26 年度実施結果, 27 年度計画(案)

資料 40-6-1 品質保証分科会 平成 27 年度活動計画(案)

資料 40-6-2 平成 27 年度各分野の規格策定活動(案)

参考資料-1 第 53 回規格委員会議事録 (案)

参考資料-2 規格策定作業におけるデータの管理について

参考資料-3 民間規格の技術評価の実施に係る計画の見直し

参考資料-4 日本電気協会 技術評価対応要領(案)

参考資料-5 「JISQ9001-2015 検討 WG」の設置について

5.議事

(1)代理委員の承認, 会議定足数の確認

棟近分科会会長により, 代理委員 6 名が承認され, 代理委員を含めて出席委員が 34 名となり, 全委員 36 名のうち, 3 分の 2 以上(24 名以上)という会議定足数を満たしていることが確認された。

また, オブザーバ 3 名の紹介があり, 分科会会長より参加が認められた。

(2) 分科会委員及び検討会委員の交代

事務局より、資料 40-1 に基づき前回(H26 年 12 月)以降の分科会委員(3 名)及び検討会委員(2 名)の新委員候補, 交替, 並びにワークショップ検討タスク委員(2 名)の新任候補, 交替についての紹介があった。分科会の新委員候補は 3 月 27 日第 54 回の原子力規格委員会で承認の予定。また, 各検討会の新委員は分科会長より承認された。

【品質保証分科会】

a. 新委員候補(1 名)

・中條 武志(中央大学)

b. 交替(2 名)

・松本 純平(三菱重工) → 浅田 義浩(同左)

・菊池 恒臣(原子燃料工業) → 中川 智博(同左)

【品質保証検討会】

b. 交替(2 名)

・徳久 貴一(三菱重工) → 松山 博久(同左)

・後藤 孝一(東北電力) → 水嶋 栄一(同左)

【ワークショップ検討タスク】

a. 新委員候補(1 名)

・中條 武志(中央大学)

b. 交替(1 名)

・松本 純平(三菱重工) → 浅田 義浩(同左)

(3) 前回議事録の確認

事務局より、資料 40-2 に基づき、第 39 回品質保証分科会議事録(案)が紹介され、正式とすることが挙手により承認された。

(4) 原子力安全のためのマネジメントシステム規程(JEAC4111-2013)の適用指針(JAG4121-201X) 改定案の公衆審査対応について

事務局より、1/16~3/15 (2 ヶ月間) 公衆審査を行っていた適用指針改定案について、意見提出がないことから成案とし、平成 27 年 3 月 15 日を改定日(第 2 回改定)として発刊準備に移行する旨の説明があった。規格番号は JEAG4121-2015 となる。

幹事より、前回、JEAC4111-2013 に適切でない記載があり刷り直しを行った経緯があることや、他の分科会においても最後の段階で間違いが発見されたことから、検討会において、印刷に回す直前及び印刷した原稿についてのレビューを実施するという発言があった。

<質問・コメントは特になし>

(5) 日本機械学会規格の誤記発生に伴う日本電気協会の誤記発生防止対応について

渡邊幹事、鈴木品質保証検討会主査より、資料 40-4-1~2 に基づき、日本機械学会規格の誤記発生に伴う日本電気協会の誤記発生防止対応についての説明があった。

資料 40-4-3 に基づき「JEAC4111-2009 及び 2013 原子力安全のためのマネジメントシステム規程の誤記について確認した結果、誤記に対するグレード①, ②, ③に該当するものはなかったとの報告があった。この結果を基本方針策定タスク主査に報告することが承認された。

<質問・コメントは特になし>

(6) JEAC4111 講習会の平成 26 年度実施結果, 27 年度計画(案)

渡邊幹事より、資料 40-5-1 に基づき、JEAC4111 講習会の平成 26 年度実施結果及び 27 年度計画(案)について報告があり、次回の原子力規格委員会に報告することについて承認された。分科会長より、規格の普及及び教育に対する活動について、原子力規格委員長から高く評価されている旨の発言があった。また、幹事より、この活動状況については、6 月に開催予定の第 2

回シンポジウムの中で、パワーポイントにより紹介するとの報告があった。

<質問・コメントは特になし>

(7)平成 27 年度各分野の規格策定活動(案)について

渡邊幹事より、資料 40-6-1~2 に基づき、平成 27 年度各分野の規格策定活動(案)についての説明があり、次回の原子力規格委員会に報告することについて承認された。

<質問・コメントは下記の通り>

- ・ISO 改定版の発行はいつ頃になるのか。
→9 月頃だろうと思う。JIS はもっと遅くなり、12 月頃になる。
- ・JEAC4121 の具体的な発刊のスケジュールはどうなっているのか、今後実施予定の講習会のスケジュールとも絡んでくると思う。
→頁数、印刷の形態に影響されるが、紙原稿を基本とすれば 1.5 か月程度で製本できる。
- ・今年の 6 月頃に発刊されるということでよいか。
→校正確認をする時間をどれだけとるかによるが、その頃には発刊ができると思う。
- 平成 27 年度のコースⅡが 10 月に実施予定であるので発刊は間に合う。

6. その他

(1) 規格策定作業におけるデータの管理について

渡邊幹事、事務局より、参考資料-2 に基づき、現在基本方針策定タスクで検討中の規格策定作業におけるデータの管理についての報告があった。各検討会で配布して検討してもらうことになった。

<質問・コメントは下記の通り>

- ・「3. 対応案」でコストダウンになると記載されているが、紙で原稿を渡したほうが時間や手間がかかるのでコストアップになると思う。また、文書の変更等管理はどのようにしているのか。
→規格原稿(ワードあるいは紙)をもとに印刷業者が専用ソフトで校正刷りを作成し、変換ミス等をチェックする作業があり、そこで時間と費用がかかることになる。今後は事務局がワードあるいはエクセルデータをプリントアウトして印刷業者に渡すことにすると時間等がセーブされるのでコストダウンになると考える。専用ソフトにより文字の配置など編集上の微調整が可能になるが、現行の管理では、事務局がワードデータをもっている印刷用変換データが修正されればそれが最終版となり、ワードデータと相違が生じてしまう。
- ・JEAC4121 では Rev23 までになった。内容については確認・推敲をしているが、印刷するための編集(段落、数字を揃えたり等)上の調整については検討会では実施しないので、印刷物にするまでのプロセスについて誰が責任を持つことになるのか。協会では実施できない場合は印刷業者に頼めないか。
→別の検討会では、編集上の構成についても検討会で考慮して、原稿を作成してもらっている。印刷をイメージした編集上の構成を行うマンパワー等が必要になるので、協会事務局内で相談する。
 - ・この資料は基本方針策定タスクとして作成しているので、最終的にはそこで決めることになるのか。
→その通りである。
 - ・検討会で議論し決めたことを基本方針策定タスクに提出すること。
→拝承
- ・大学の入試問題の作成において似たような議論をしている。数学の問題は基本的に数式がかなり入っているのだから、かなり難しく紙(基本的には PDF)の媒体で印刷業者に渡す。したがって、編集はこちら側で実施することになる。その他の文章の多い科目は編集が大変であるのでテキストデータだけを渡して編集を実施してもらうことにしている。したがって、一律にやるよりはタイプによりやり方を考えることがよいと思う。

(2) 民間規格の技術評価の実施に係る計画の見直し

渡邊幹事より、参考資料-3, 4に基づき、現在、日本電気協会の「原子炉構造材の監視試験方法」の技術評価が始まっているが、民間規格の技術評価の対応要領(案)についての報告があった。これについて、6月の原子力規格委員会でまとめることになるので、コメント等があれば4月末までに分科会長、幹事、事務局へメールで提出してもらうことになった。

<質問・コメントは特になし>

(3) 「JISQ9001-2015 検討WG」の設置について

渡邊幹事より、参考資料-5に基づき「JISQ9001-2015 検討WG」の設置について、目的、期間、メンバ等の紹介があった。

(4) 次回の品質保証分科会の開催日については、これまでの慣例では次々回(6月)の原子力規格委員会の7日～10日前に実施することになるので、次回(3/27)の原子力規格委員会で次々回の開催日が決まったら委員にメール等で調整することになった。

以上